

## ～訪問団の一員として～

国際交流員 クリス・ハウエル

今年、七飯町の訪問団の一員として私の故郷のコンコードに一週間ほど帰ることができました。

### 準備

コンコードに行く前に、訪問団の皆さんと一緒に研修会を5回しました。初めは、僕が去年から住んでいる七飯の歴史や文化を学び、とても勉強になりました。その後、僕は皆さんにコンコード、アメリカ、英語について出来るだけ教えようと思いました。文化的に、普段は朝食に何を食るとか（家族による）、家に入ると靴を脱ぐべきか（家族による）、アメリカのお金はどんな感じなのか（札が多い）などについて話して、練習しました。英語は、どうやって七飯について述べたらいいのか、ホームステイ中どうやって生活についてのコミュニケーションを取るか、どうやったら英語をきれいに発音できるかなど、大事なことが中心で、皆さんがよく頑張っていて良い勉強になっていたと思います。もちろん、4回だけで英語を完全に覚えるわけではありませんが、皆さんはこの研修でかなり英語を覚えていたので、研修会は心配なく終わることが出来ました。

文化や言葉を覚えるのは大切ですが、もっと大切なのは色々な学校、生活、国からきた大人と子供と一緒に活動に参加し、仲良くなってきたことだと思います。海外交流研修を成功させるのは、赤の他人どうしなら無理だと思います。

### 出発

函館を出発するために、朝早く空港に行きました。空港で、訪問団の生徒の両親の見送りを見て、私を待っている両親の歓迎を考えて、アメリカに帰る楽しみが増えてきました。無事に成田空港に着いて、午後アメリカ行きの飛行機に乗って日本を出ました。アメリカまでの飛行機は長くて大変といつも言われていますが、私にとっては成田空港までの方が厳しいです。函館空港まで行って、飛行機に乗って、また羽田空港から成田空港までバスに乗って、国際飛行機に乗る前に3、4時間待つのは、1日かかるし、道のりが複雑なので、迷子になるか、何か問題が起こる可能性が高いです。でも、今年は新幹線がやってきて、七飯駅から成田空港駅まで列車で行けるようになるので、車を使わなくて東京まで行けることをとても楽しみにしています。二つの国の距離がどんどん縮まっていくと思います。

同じように、JALのボストンまでの直行便は、新しい787ドリームライナーに変わったので、前に比べて着くのが早いだけではなく、とても気楽に乗れるので、着いたら旅の疲れも早く取れるようになりました。

## 到着

やっとボストンに着いたときは、夜でした。研修会で練習した通り、税関を通して、皆さんは無事に入国できました。飛行機が早くなったといっても、半日の旅に慣れてない皆さんはやっぱり疲れが溜まっていたようでしたが、最後まで頑張りました。空港から出たとき、ボストンの空気を吸って、なんとなく落ち着きました。一年間弱アメリカに帰っていない私は、とても懐かしく感じました。



CCHS で対面式

トム・カーティンさん、カーグラ・ジュンコさんなどの七飯町に関係があるコンコードの方が迎えに来てくれて、コンコードの黄色のスクールバスに乗りました。訪問団の皆さんがボストンのビル、車、高速道路といった景色を見ながら、1時間CCHSまで乗りました。私の昔の高校に行くのはとても嬉しいと言いたいところですが、実はそうではありません。なぜなら、私が通っていた時の校舎は、日本にいる間に解体されて、駐車場になってしまったからです。今回訪れた時は、前の校舎の裏の丘に、新しい立派な校舎が建てられていました。そこで、滞在中子供たちをお世話するデイビッド・ナレンバーグ先生、今年の4月に七飯に来るコンコードサイファイクラブのメンバー、ホストファミリーたち、そして私の両親が待ちました。久しぶりに二人の嬉しい顔を見て、感動しましたが、再会を楽しむ時間はあまりありませんでした。なぜなら、その瞬間からコンコード滞在が終わるまで、私は通訳で皆さんが言葉の壁を乗り越えるために頑張っていたからです。

サイファイクラブは、飛行機を降りたばかりでお腹が減っていた皆さんにアメリカの料理やお菓子を用意して、それを食べながら皆さんはホストファミリーと交流しました。10時ぐらいに、皆さんは帰って、明日からも元気を出せるようにぐっすり寝ました。



テレビスタジオ

## 滞在

コンコード訪問団は2つに別れて行動しました。大人の方たちは、ジュンコさんやカーティンさんと一緒に、コンコードの農業を見学しました。中高生たちは、デイビッド先生、鈴木先生、それと私と一緒にCCHSに行ってアメリカの高校生活を見学しました。CCHSでの活動は、コンコードのラジオ局で番組に出て、テレビスタジオでトークショーに

出演し、カフェテリアでご飯を食べて、CCHSを満喫しました。

滞在中は、ハロウィンという祝日がありました。そのハロウィンに大人も子供も、アメリカのセーラム市という、ハロウィンの名所に行きました。デイビッド先生は、私とジュンコさんの手伝いを借りながら、皆さんを案内しました。セーラム市は、とても長い歴史があって、現代のハロウィン衣装を見ながら、怖い魔女裁判の歴史を教えてくださいました。同じように、アメリカの独立戦争の開戦地であるミニットマン国立公園や、ヘンリー・デイビッド・ソローという作家が書いた名作「ウォールデン」と同名の湖も別の日に見に行きました。



ミニットマン国立公園で (上)  
ウォールデンpond (左下)



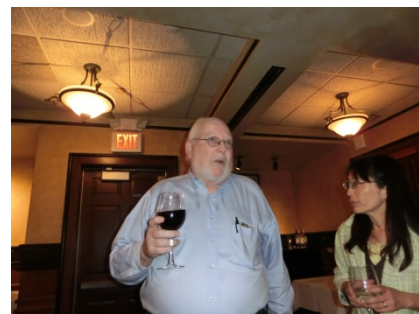
観光をしていない時、皆さんはホストファミリーと交流しました。私の妹は、シカゴに引っ越しましたが、私に会うために帰ってきてくれて、家族全員で、ご飯を食べたり楽しんだりしました。お父さんは、コンコードの職員としてコンコードのインターネットサービスを管理しており、私はその技術を見に行くことができました。

コンコードに滞在中は特に問題なく過ごせましたが、高校生の一人真由ちゃんの場合が悪くなってきて、最後の晩私の家でホームステイしました。実は、私のお母さんは、中高生をホームステイさせたかったので、とても嬉しそうにしていました。真由ちゃんは元気になり、翌日からニューヨークを楽しむことが出来たようです。

送別会で話すトムさん

## 送別

最後の夜、中高生たちはサイファイクラブが主催の送別会に参加し、大人たちは別の送別会でイタリア料理を食べました。長く語ったスピーチで、コンコードと七飯の親しみを強く感じました。次の日の朝早く、最後にCCHSに集まり、涙が出るぐらい感動的なさよならをしました。コンコードの人々と七飯の人々との間には、絆が出来たことをはっきりと感じることが出来ました。



私も、両親とのさよならは悲しいですが、両親が私を自慢に思っていることも感じて嬉しかったです。将来、通訳者になりたい私は、一週間のこの経験を通して、日本語能力、通訳能力、それに私の仕事や住んでいる町の人々などを両親に見せる

ことが出来て、良かったです。コンコードから遠く離れている日本にいる私は、その一週間だけでも大切な思い出として残りました。

## 観光

コンコードを出発し、バスに乗って、世界一の町ニューヨーク市に行きました。滞在期間は一日半しかありませんでしたが、ツアーガイドの方のおかげで、ニューヨークの名所を見ることができ、コンコードと全く違うアメリカの都会を感じました。コンコードは、森に囲まれており、のどかな雰囲気のある町ですが、ニューヨークはコンクリートだらけの都会です。コンコードの人は白人が多いですが、ニューヨークの人は数えきれない民族がいて、色々な言葉を喋っていて、コンコードでは感じられないアメリカの多様性を体験しました。自由の女神とエリス・アイランドを観て、アメリカの移民の歴史を覚えて、ロックフェラーセンターに行って、1920年代のニューヨークのまちづくりを覚え、現代に大変影響がある9.11テロが起こった現場、グラウンド・ゼロも見ました。国際連合のビルやチャイナタウンも見て、一日半だけでニューヨークをたっぷり満喫したと思います。

個人的に、私の祖父母や、お父さんの兄弟は何人もニューヨークに住んでいますので、会うことができました。あの時、おばあさんの調子が悪く心配だったので、会えたのはとても嬉しいです。今は、手術を受けて、無事回復しました。

## 帰国

朝のバスは遅かったですが、その後手荷物で大きすぎるシャンプーがある事以外、問題はなく帰国は無事に済みました。疲れていたもので、機内でよく寝ました。夜遅くやっと皆が待っていた七飯町に帰って、私は、また落ち着きました。きっと、一生印象が残る経験になると思います。



国際連合



グラウンド・ゼロ



自由の女神に向かうフェリーで